

Art 工業(株)
代表取締役

PICK UP

THE PERSON

吉田 栄太

KEY WORD

真っ直ぐ

— massugu —

リフォーム工事を手掛ける吉田社長の、職人としての仕事への向き合い方、そして経営者としての経営方針は、実にシンプルで正攻法だ。ホームページや広告でPRをするでもなく、営業らしい営業もしない。奇抜なアイデアが必要だとは考えない。ただ正面から人と向き合い、職人として誇りを持ってなすべきことをするのが、社長の仕事のスタンスであり、ポリシーとも呼べるものだ。その誠実な姿勢を継続した結果、信頼を確たるものとし、今があるのだ。ひたすらに真っ直ぐな社長の信念こそが、会社の推進力となっている。



「人との交流と施工へのこだわり。
それこそが信頼を生むと信じています」



代表取締役 吉田 栄太

福岡市出身。音楽とスポーツが好きな活発な少年時代を送る。中学生の時からバンド活動を始め、高校卒業後は音響の専門学校に進学。オーディオ機器の会社で営業マンを務めていたが、納品先で職人の施工現場を見て影響を受け、職人の世界に転身。左官工事の会社で技術を磨き、独立後はその他専門分野の職人と協力しながらリフォーム全般に対応するようになり。そして法人化も経て現在に至っている。



「Art工業」では、各専門分野の職人同士が連携することで、リフォーム・リニューアル工事に関する依頼を一括して受けている。吉田社長を筆頭に、約四半世紀にわたって手掛けてきた実績と強固なチームワークで、その施工に対するクライアントからの信頼は厚い。本日はタレントの布川敏和氏が社長のもとを訪問。仕事に対する思いなどを伺った。

——吉田社長は学生時代、どんな少年でしたか。

音楽が好きで、中学生の時からバンド活動を始めました。ロックバンドで、私はギターボーカルだったんです。その趣味の延長で進路も選び、高校卒業後は音響の専門学校に入学。そしてオーディオ機器の会社に就職して、営業マンを務めていました。ですがある時、学校に視聴覚教室を作るための音響機材を納めた際に、現場で施工する職人さんの姿を見て「面白そうだな」と思い、職人の世界に転身することを決めました。その時の学校が、オーディオ会社での最後の仕事になりました。

——おお、即行動されたんですね。

中学生時代から約10年間続いていたバンド活動も、ちょうどストップするタイミングでしたから、人生の節目だったのかもかもしれません。そして左官工事の会社に丁稚奉公に入ったのですが、修業はかなり厳しかったですね。それでも何とか耐え腕を磨き、30歳を過ぎたところに一人親方として独立。そこから、左官工事にこだわらず、周囲の職人仲間と協力して「リフォームに関することなら何でもやります」というスタ

という声を直接聞くことができる。「この仕事をしていて良かった」と思える瞬間ですね。

——人に対する温かみと、仕事に対する誇りを感じます。確かに、直接的な人の交流を大切にされているというのは、安心感がありますよ。

ありがとうございます。お陰さまで順調に仕事が増えていったので、昨年には法人化したしました。法人になったことで、できる仕事の幅が広がりましたし、お客様からの信用もさらに増したと思います。とは言え、法人にしたからといって、根本的には何も変わりません。これまで通りの姿勢で仕事に励みますし、社名も個人でやっていた時の「Art工業」に株式会社を付けただけです。法人化にあたってインパクトのある社名に変えるのも一つかと思いましたが、私はシンプルなものにしています。

——奇を衒わず、地道に歩まれていることが窺えます。リフォームって自分が住む家のことですから、やはりこういう堅実な会社に頼みたいものです。コロナで大変かと思いますが、お仕事はいかがですか。

これはリフォームの特殊なところなんです。世の中の景気にそれほど左右されず依頼があるんです。むしろ、景気が良い時ほど「取り壊して思い切って新築しよう」と考える方も増えるので、新築ではなくリフォームに特化してきたお陰で、幸いにも安定しています。

——なるほど。リフォームと新築って、似ているようでニーズや役割が違いますね。今後も順調な成長が見込めそうです。これまで通り信頼を守り続けていくだけで、無理な事業規模の拡大などは考えてい

イルでやってきました。私自身は、現場に出る場合は防水工事と左官工事が専門ですが、大工、建具、クロス、塗装など様々な専門分野の職員と協力体制を築いており、幅広いご依頼を当社で一括して受けられるんです。

——お客さんとしては業者を分けて考える必要がなく、御社に声をかければ全て話が通るわけだ。

そういうことです。依頼があれば私がメンバーを集め、多い時には1日あたり20〜30人に声掛けをし、複数の現場でチームを組んで動きます。もう約四半世紀続いていますから、協力関係にある職人さんは皆信用でき、気心が知れた仲間ばかりです。間違いない良い仕事を納めることができますから、お客様にも安心していただけます。

——お仕事の二依頼は、紹介が多いのでしょうか。

はい。当社では敢えてホームページも作っていませんから、現場の仕上がりそのものや紹介が営業の役割も果たします。私の考えとしては、ホームページや広告などを派手に出して、器用にお客様を取り入れるような方法は、あまり好きではないんです。直接お会いしてお話をし、現場の仕上がりにご満足いただく。そしてもし気に入って下されば、他のお客様を紹介していただけることにもつながります。そんな風に人と人との交流を大切に、真っ直ぐ向き合いながら仕事を進めていきたいと思っています。リフォームの現場で、「綺麗にしてくれてありがとう」などと声掛けいただけることもあり、その時は本当に嬉しいですよ。仕事をいただいて、お礼を言いたいのはこっちのほうなのに、「ありがとう」

真っ直ぐな姿勢でクライアントと向き合い 職人同士で連携しリフォームに関して何でも対応



ゲスト ● 布川 敏和

「壊すことなくより良い形で残していけることが、リフォームの魅力の1つだと吉田社長はおっしゃっていました。価値ある部分や建物の見極め、その活かし方などは、新築工事とはまた違った奥深さがありますね。仕事の上でのそうした視点は、趣味で長く音楽をしてこられた社長の感性も、活かされているのだろうと感じましたよ」



建築リフォーム・リニューアル工事
Art 工業 株式会社
福岡県知事許可(般-2)第113761号
福岡県福岡市城南区田島1丁目11-16

ません。周囲の皆さんと一緒に、チームとして良い仕事を継続していきたいですね。現在、私の子どもが同業他社で修業をしているところなんです。将来的に一緒に仕事をするようになるか、また私の後を継ぐつもりがあるかなどは分かりません。どちらにせよ本人の意思を尊重して応援してあげるつもりではありますが、もし継ぐつもりがあるのなら、全力でサポートしてあげたいと思っています。

建築の価値を見直す奥深い世界

▼約四半世紀にわたってリフォーム工事を手掛けてきた吉田社長は、「いずれは保存の仕事もしてみたいんです」と話した。歴史的建造物、遺跡、古民家などを、状態を保持して残す仕事だ。たとえば原爆ドームなどは、その形を残すところに意味がある。古い建物でも、綺麗に作り直すのではなく当時の姿を残すからこそ、貴重なものとなるケースは多々ある。

▼社長がこうしたことに興味を持ち始めたのは、新築ではなくリフォームという仕事を続けてきたからこそだ。実は「Art工業」の事務所は、築50年になる社長の実家を改装したもの。当初は全て壊しての新築を考えていたが、古い建物の価値、生まれ育った家を残すことの意義を感じ、部分的に改装し残す方向にしたという。価値のある建物や思い入れのある建物を残していくことができる——そうした側面がリフォームの魅力であり、社長の新たな今後の関心を育むことにもつながったのだ。